

ハンドボール競技におけるセンターDFの1対1の運動モルフォロギー的研究

洲脇 拓真(1511043)

<序論>

研究動機・研究目的・研究方法

筆者は「センターDFの1対1」について研究を進めたいと考えた。このことに着目した理由として、筆者は10年間ハンドボールでセンターDFとして活動してきた。とセンターDFはディフェンスの中心でありシステムを理解し周りに指示を出さなくてはならない。よって自分の考えがある程度確立しており比較しながら研究を進めていくことができると思ったからである。次に、秋田大学ハンドボール部のメンバーは関東や全日本インカレ上位チームのメンバーと比べるとともに小柄である。大柄な選手たちと対峙する時、正面から向かっても負けてしまう。小柄なチームでも大柄なチームと対等に闘えるようになれるようになるのに重要なのは戦術である。自分たちとの相性の悪いチームが相手でもボールを奪い、速攻へ繋げることができるようになる手立てに気付くことができるのではないかと考えたからである。

本研究の目的は、相手の状況を見てどのように自分がプレーすれば、チームにとって有利な場面をもたらすことができるのかを考えることを課題としてきた。そこで、本研究ではマイネルの運動モルフォロギー的考察法に基づいて、ポストプレイヤーのDF方法を分類することである。

本研究では、センターDFの1対1の構造を見抜くことを目的としており、マイネルの運動カテゴリーの中でも、特に四つのカテゴリーを中心に分析を進めていくことにする。その際映像は、「高松宮記念杯男子第57回・女子第50回平成26年度全日本学生ハンドボール選手権大会」より、ベスト8以上のチームの試合を撮影し、その中でも、センターDFの1対1が見られる計257場面を原資料として抽出し観察対象とする。そして、センターDFの1対1、特にポストプレイヤーのDF方法について分類を試みる。

<本論>

第一章 ハンドボール競技の構造特性

ハンドボールはチームスポーツ種目に属し、ルールにしたがい2チームによって行われる競技である。ハンドボールのゲーム活動目標は、ボールを手で相手チームのゴールに投げ入れ、自分のゴールを相手の攻撃から防御することにあり、定められた競技時間にあげた得点の多いチームが勝者となる。ここでは、ボールゲームとしてハンドボール競技の特性についてまとめている。

第二章 ゲームの運動観察方法について

本研究では、ゲームの運動観察方法として運動モルフォロギー的考察法を重視している。また、それに加え、フィルム、ビデオによる観察法を用いて考察した。他者観察をもとに研究を進めていく。センターDFの1対1の構造を見抜いていく際に、マイネルの運動カテゴリーの中から、特に「運動の局面構造」、「運動伝導」、「運動リズム」、「運動の先取り」の4つを用いて印象分析をおこない、運動構造を理解していく。特にマイネルが取り上げた運動カテゴリーは、運動経過の本質を捉るために必要なものであり、それらは運動の理想像である正しい運動または上手な運動をおこなうために密接に関わってくる。さらに印象分析の際には、より間主観的な運動観察をおこなうために「共同観察」によって進められた。

第三章 センターDFの1対1の分類

この章では、筆者が「高松宮記念杯男子第57回・女子第50回 平成26年度全日本学生ハンドボール選手権大会」で撮影したビデオから、センターDFの1対1の257場面を抽出し、それらの印象分析とその結果の考察をおこない、カテゴリー的観点から分類を試みた。その結果、以下のようにセンターDFの1対1特にポストプレイヤーのDF方法を分類することができた。

①後ろ ボールカット型

- ・ポストプレイヤーを自分の後ろに置く
- ・センタープレイヤーとポストプレイヤーの間に位置取る

②後ろ 進行阻止・制限型

- ・ポストプレイヤーを自分の後ろに置く
- ・走ろうとするポストプレイヤーに対して腕や脚を使い、進行を阻止する

③前 進行阻止・制限型

- ・自分の前にポストプレイヤーを置く
- ・相手センタープレイヤーとの連携を予測し、体を密着させポストプレイヤーの動きを阻止・制限している

④前 ボールカット型

- ・自分の前にポストプレイヤーを置く
- ・ボールの動きを予測し、相手ポストプレイヤーの前に出てカットしている

<結論>

本研究ではセンターDFの1対1に着目して運動モルフォロギー的観点から運動観察をおこなうことによって、センターDFの1対1の構造を明らかにし、大きく4つに分類することができた。今回センターDFの1対1について分類をおこなうにあたって、それぞれのDFの特徴や構造について明らかにすることができた。センターDFの1対1をおこなうには、運動構造を理解することが必要である。また、運動の先取り能力を高めることでセンターDFの1対1をより成功につなげることができると考える。(引用・参考文献省略)